

それぞれの親方からも期待が高まっている。

五日目までを取り終えて先頭を引っ張る大関春ノ翔と平幕の白閃光の全勝の2名を、1敗の九名がその後を追う展開で、中日六日目と七日目を迎える運びとなった。先場所から続く絶好調の大関の勢いは止まりそうにも無さそうだが、まだまだ優勝争いを絞り込める段階ではなく、中日からの土俵にも注目が集まる。



龍不動○(下手投げ)●日向藤

そんなこの先の展開が楽しみな次開催は一ヶ月半後、お彼岸の9月22日とアナウンスされた。全国の紙相撲ファンの皆様、六日目の以降の土俵にも乞うご期待！

(香具山)

春雷番若対決再びか

五日目を終えて、春雷、雪若丸の勝間田部屋2人が5連勝として十両優勝の先頭に立った。これを大江鏡、鹿富士、榮ノ城、西安電幕、若雲山の6力士が1敗で追う展開。またしても春雷、雪若丸の優勝争いか！という声が囁かれた通り、先場所はこの2人による同部屋の優勝決定戦になり、春雷が勝って優勝している。

今場所も同様の展開の様相だ。春雷は勝ち越し、そして新入幕までマジック1。「勝間田若手が育つてくるね。羨ましいなあ」とは鹿賀乃戸親方。名門鹿賀乃戸部屋は幕内力士がおらず、思わず本音が出ている。



春雷○(寄り切り)●鹿富士

しかし、今場所の鹿賀乃戸部屋は部屋頭の鹿富士が五日目の春雷との全勝対決に敗れたものの、1敗で優勝と幕内返り咲きが視野に入っており、新十両の若雲山も1敗と好調。「勝間田の独壇場を阻止するぞ！」と意気込んでいる。

若手の成長が著しいのが春日根部屋と香具山部屋。春日根部屋は千代鈴に続けと十両に西安と西勢ノ里の2人がいるが五日目を終えて明暗が分かれている。西安は先場所に続いて、ここまで4勝1敗と優勝争いを演じている。一方、先場所に幕下優勝して再十両の西勢ノ里はどうしたのか、ここまで1勝4敗。「幕下では強いのに十両の水が合わないのかね？」と鹿賀乃戸親方。中日からの奮起が期待される。

また、夢力に次ぐ希望の関取誕生で盛り上がりを見せている香具山部屋。夢香山は五日目まで2勝3敗と黒星先行。「ここから勝ち越し目指して夢香山らしい相撲を取ってもらいたい！」と力を入る香具山親方。中日からが勝負となる。

ベテラン勢では、元関脇水晶嶽とお元大関鬼ヶ嶽の成績が上がらない。水晶嶽は1勝4敗、鬼ヶ嶽は2勝3敗の成績。特に水晶嶽は十両では大勝ちするだろうと思われていただけに、この成績は心配なところ。「おかしいなあ？」と磯ノ海親方も不甲斐ない相撲に頭を悩ましていた。

(錦風)

友砂期待の誓、今場所こそ

幕下は初日が幕を開けた。今場所の幕下は鹿賀乃戸部屋と香具山部屋が4力士、勝間田部屋、英部屋、春日根部屋、磯ノ海部屋の4部屋が3力士と大人数が名を連ねている。

今場所の幕下で注目の一番手は友砂部屋だ。珍しく友砂親方がその一挙手一投足を気にかけていて、先場所は東筆頭で勝ち越せば新十両という場所で惜しいのも負け越して「暫は強いのかなあ！」と今場所こそはと力が入っている。その暫は初日に黒田に勝って、好スタートを切った。



黒田●(寄り切り)○暫

暫に敗れたものの、今場所の香具山部屋は4人も注目だ。花形と黒田が東西の三枚目と関取昇進を狙う絶好の地位にいる。それに加えて今場所は三國、山下が新幕下に昇進

初日はともに白星発進し、香具山親方も満面の笑みを浮かべていた。



吉備里●(押し倒し)○西神門

今場所の新幕下は、香具山部屋の三國と山下の他に鹿牛田と勝ノ川の2人。鹿牛田は紙相撲の取材に来てくれたNHKの牛田アナウンサーにちなんで鹿賀乃戸親方が命名したが、育成会で地道に勝ち星を重ねて悲願の幕下入りを果たした。愛情を注いで育てる鹿賀乃戸部屋ならでは。愛情を注いで育てる鹿賀乃戸部屋ならでは。愛情を注いで育てる鹿賀乃戸部屋ならでは。

勝ノ川は阿古屋川の引退枠で幕下付出しデビューした。若手の有望株が目白押し。勝間田部屋にあって、勝間田親方が選んだ力士だけにポテンシャルの高い力士と思われる。初日は元十両の九頭竜を寄り切りで白星での発進となった。

幕内の初日から遅れること3週間、育成会も初日の幕を開けた。三段目では育成会5場所目にして東筆頭まで上がってきた戸田が木幡を下し、幕下昇進に向けて好スタートを切った。

三段目、序の口

その戸田と同期デビューの勝錦と先場所序二段優勝の蛭国を破った兄弟部屋の駒波も白星発進。西四枚目で紙界最小兵の藤丸が巨漢の若津をうまく左を差してから寄り切る相撲で二日目以降ダークホース的な存在になってきそうな気配だ。



木幡●-○戸田



花形○(寄り切り)●福添

先場所序二段で勝ち切ったものの、やや力を出し切れなかった感のある巨鵬は東灘所こそは優勝候補の一人に入ってくるだろう。このまま勝ち進めば島内を圧倒した西旭や戸田らとの対戦も出てくるだろう。

赤安が序二段を飛ばして三段目に昇進。実は先場所の優勝の陰には極秘に春日根再生工場でも。そうであれば今場所も活躍も期待されるところだが、綱楦に敗れて黒星スタート。やはり三段目ではそう簡単に勝たせてはくれなそう。

序二段は、本命は初日の相撲を見る限りでは虎麒麟と磯若、復活を目指す松山あたりが有力か。鹿賀乃戸部屋の陸皇、鹿麒麟、鹿電馬が白星スタートとしたのに対し、宿命のラバル錦風部屋の逆起と磐若はともに敗れて明暗が分かれた。

西強から改名の他力岳は伏龍を左差しから寄り切った。付出で八枚目に入った谷ノ富士と壬馬皇の付出同士の対戦は寄り切った壬馬皇が制した。



壬馬皇○-●谷乃藤



巨鵬○-●東灘

序の口では桐重部屋が先場所三段目で負け越したが4人を全員廃業させて3人の新人を送り込んだ。錦風部屋は序の口優勝の実績もある響櫻をバツサリ切り捨てて逆馬山と虹ヶ谷を入門させた。その期待の一人の逆馬山は錦風のいまや十八番とも言える右攻めからの押し倒し。



駒富士●-○隠岐花

(勝間田)